千科大×ガラスリソーシング㈱

「グローバル食料増産プロジェクト」発進！

世界的食料危機を銚子から救う!!

「スピード感もって1年目安に」と伊藤会長

昆虫をタンパク源に水産飼料や家畜のエサに

「千葉科学大学とガラスリソーシング㈱は本日世界的食料危機を救う『グローバル食料増産プロジェクト』の共同研究の契約を締結・調印しました。1年後を目安に、スピード感をもって研究を進めていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします」と力強く呼びかけるのはガラスリソーシング㈱（本社…銚子市春日町）の伊藤憲一会長だ。

千葉科学大学とガラスリソーシング㈱は、世界的人口増加による食料危機が見込まれ、また水産養殖や畜産における魚粉飼料の高騰・不足を懸念し、『世界的食料危機を救う、グローバル食料増産プロジェクト』をスタート！共同研究にかかる契約の覚書調印式が12月20日（木）、千葉科学大学本部キャンパスで挙行された。

千葉科学大学とガラスリソーシング㈱が「世界的食料危機を救う、グローバル食料増産プロジェクト」の共同研究契約に調印！左はガラスリーシング㈱の伊藤憲一会長、右は千葉科学大学の木曽功学長

覚書調印締結を祝うガラスリソーシング㈱の鈴木芳明顧問、近藤嘉造取締役、柏熊武彦取締役、赤坂修社長（左から）

銚子版ダネイホンの誕生なるか？

今、NHKの朝連ドラで放送中の『まんぷく』では、戦後の食料危機・栄養失調に陥った人々を救うため、主人公・立花萬平がタンパク質やカルシウムなどが豊富な"ダネイホン（ドイツ語で栄養という意味）"を牛骨や昆布から作り、世の人々を救っている。ガラスリソーシング㈱と千葉科学大学が共同研究するのはコオロギを中心とした昆虫で、養殖方法や有効な栄養成分について研究を進めていくことになる。まさに現代版・立花萬平であり、ダネイホン！研究成功後の名は"ダネイホン"になるか"まんぷく"になるか…は未知数だが、おそらくもっと垢抜けたものになるか？

輸入に頼っている水産養殖用・畜産用のエサ

「危機感覚える」と伊藤憲一会長

日本の国策として飼料を開発せねば！

産学連携センターの伊勢﨑翼先生（プロジェクトマネジメントリーダー）の司会進行で幕を開けた調印式で、ガラスリソーシング㈱の伊藤憲一会長は、

「今回のプロジェクトは世界的食料危機を救うグローバル食料増産プロジェクトです。私が何を思ったか？日本の食生活で一番問題になっているのは輸入に頼っている水産養殖用・畜産用のエサ。輸入で賄っているのが日本の現状で、それを危惧して千葉科学大学さんにお願いしてこのプロジェクト契約を締結するに至りました」

と冴えわたる"伊藤節"全開で熱く語り、プロジェクトに寄せる期待を次のように述べた。

「世界的食料危機に備える危機管理に向けてこのプロジェクトを発進します」と語るガラスリソーシング㈱の伊藤憲一会長

▼伊藤憲一・ガラスリソーシング㈱会長

国際連合の世界の"将来人口予測"では、今後毎年8300万人の人口増加が続き、現在の世界人口76億人が2030年には86億人、2050年には98億人になると予測されています。日本の国策として動物の飼料を外国に頼っている状況はどうなのか、非常に危惧を覚えます。

我々、子孫は食べていけるのか？そういう危機感のもと木曽学長と話をさせていただき「昆虫を主体としたタンパク源」の研究開発をスローガンに掲げ、プロジェクトを発進しました。

千葉科学大学を運営する加計学園では、ちょうどいい具合に岡山理科大に獣医学部が開設されました。これは非常にいいチャンス！千葉科学大学を主体にして、獣医学部との連携、薬学部との連携を図って未来の食料危機に備えてまいりたい。昆虫はあらゆるものをエサにして生きており、コオロギなどの栄養成分を薬学部に分析・研究していただきたいと思います。

伊勢﨑翼プロジェクトマネジメントリーダー

「ガラスリソーシング㈱さんと共に研究開発を進めてまいります」と語る木曽功・千葉科学大学学長

昆虫食はウマイ！

▼伊藤会長

人間に役立つ昆虫を魚や畜産動物のエサにしたら大変面白いのではないか？また、ガラスリソーシング㈱にはタイに派遣スタッフがおりますが、タイでは昆虫食が「美味しいし、栄養豊富」と大人気なんだそうです。またメキシコでは昆虫食は高級グルメだそうです。日本人も昔からイナゴを貴重なタンパク源として食べてきました。

魚や動物のエサとしてだけ昆虫を考えるのではなく、将来的には人間のための食料あるいはサプリメントとしての開発も考えていくべき。もう一度昆虫を見直そうというニーズが世界的に高まっています。せっかくですから我々日本人も、昆虫という分野を今一度見直し、これから80億、90億と人口増加していくなかでの食料危機を乗り越え回避してまいりたい。千葉科学大学と共に研究開発し、石田教授・八角教授らと共に成果をあげていきたいと強く願っております。

今、銚子市は低迷していますが、このプロジェクトを千葉科学大学イコール銚子から発信し、銚子の復活目指して千葉科学大学と共に歩んでいきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

「地元企業と共同研究ありがたい」と木曽学長

木曽功学長は、「本日、覚書の調印式に臨むことができ、ガラスリソーシング㈱様には本当に感謝しております。誠にありがとうございました」と感謝を表し、次のようにあいさつ。

▼木曽功学長

千葉科学大学は薬学部・危機管理学部・看護学部の3つの学部から成る大学で、特に薬学部は薬の専門家がたくさん在籍しております。また動物・環境系の学科が危機管理学部にあります。いろいろな意味で、地元企業と一緒に共同研究ができることは非常にありがたく思っております。

大学の研究費は潤沢にあるわけでなく、今回ガラスリソーシング㈱から今年度の研究費として1千万円いただきました。大学としては石田信宏教授をプロジェクトリーダーとし、学内でチームを組んで研究を進めてまいります。

八角憲男・産学連携センター長も同席されておりますが、いろいろな意味で"産学連携"の非常に大きなプロジェクトになるのではないかと期待しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

左から千葉科学大学産学連携センターの八角憲男センター長、石田信宏プロジェクトリーダー

「昆虫は可能性秘めている」と石田教授

プロジェクトリーダーの石田信宏教授は、

「昆虫は家畜や魚に食べさせるエサとしてエンジニアリングすることも可能ですし、あまり世界的にやられていない分野ですので可能性を秘めています。銚子の地に合っている昆虫を伸ばしていきたいと考えています」

とコメント。

「昆虫からサプリメントできるかも」と赤坂社長

木曽学長から"学長プロジェクトリーダー"に任命されたガラスリソーシング㈱の赤坂修社長は、

「銚子にはキャベツの外葉など捨ててしまう食料がたくさんあります。それが昆虫のエサに適しているかもしれませんし、また捨ててしまう魚などもたくさんあります。そうしたものが昆虫養殖に役立つかどうかを共同研究して、魚の養殖や家畜のエサにできるよう開発していきたい」

と語り、

「もしかしたら昆虫から画期的な成分が発見され健康や美容に役立つサプリメントが開発されるかもしれませんよ」

とニッコリ。伊藤会長はタイの大学との連携も考えており、留学生を千葉科学大学に呼び込み、卒業後はガラスリソーシング㈱に就職してもらうことも視野に入れている。

銚子版"ダネイホン"が誕生する日も近いかもしれない。

【世界的食料危機を救う、グローバル食料増産プロジェクト】

▼研究テーマ

「未来のタンパク源としての昆虫類の養殖技術及び有効利用に関する研究」「コオロギの養殖開発事業」

▼研究の背景

今後、世界的人口増加に伴う世界の食料自給率が年々低下していくなか食料問題が深刻化する。その解決策として、新たな代替食料の研究開発は必須のものとなる。

この食料問題と切り離すことができない問題として、水産養殖でのエサおよび牛・豚・鶏などの家畜のエサをどのように確保するのかがあげられる。特に、水産養殖のエサとなる魚粉飼料は大半が有限であるイワシを原料としている。現在の日本の状況は、そのエサを海外からの輸入に頼っており、昨今の穀物を含めた価格高騰に養殖業者は苦慮している。

これらの問題を解決するためにも、国内での開発生産が求められる。千葉科学大学とガラスリソーシング㈱との間で、以下を研究テーマとする共同開発が開始される。

▼研究テーマ

①昆虫類養殖の技術開発
②昆虫類を飼料とした場合の適用性検討
③昆虫類をサプリメントなどに活用する研究
④飼料とする昆虫類とサプリメントなどの販売マーケットの研究
⑤昆虫類の遺伝子操作による改良の可能性に係る研究

ガラスリソーシング㈱の赤坂修社長を木曽功学長が"学長プロジェクトリーダー"に委嘱

謹賀新年
2019年 元旦
NTT東日本　千葉事業部

ハンバーグ・ポークソティ・チキンソティ
カニクリームコロッケ・グラタン　etc
ランチタイムサービス
日替わりランチ
Aランチ　820円
Bランチ　1080円
オードブル（5400円）承ります
キッチン三笠
銚子市役所西側
定休日⇒木曜日
☎22−1902

平成31年の幕開けに寄せて

明るく豊かな社会実現に邁進！

銚子青年会議所理事長　大木　啓嗣

皆様、新年あけましておめでとうございます。私は一般社団法人銚子青年会議所2019年度理事長、大木啓嗣と申します。1年間よろしくお願い致します。

当青年会議所は1964年に産声をあげ、これまでに多くの先輩諸兄が「明るく豊かな社会の実現」に向け事業を展開し、銚子の発展のため尽力してまいりました。本年もその思いを継承し、銚子に貢献できる団体として運動を展開してまいります。

さて、当青年会議所の紹介をさせていただきます。特徴としましては、①定年制②単年度制があります。入会資格は20歳から40歳までの青年で、会の承認を得れば入会できます。しばしば「経営者でないと入会できないのでは？」との声をいただきますが、決してそのようなことはありません。

「地元をよくしたい！盛り上げたい！」その気持ちだけで十分です。単年度制とは毎年役職が変わるということです。私の理事長職も1年間のみです。そして事業計画も毎年作成します。基本的に地域の課題を見つけ、それを解決するような事業を展開しています。

次に2019年度の事業を紹介させていただきます。

【銚子の観光を発展させる事業】

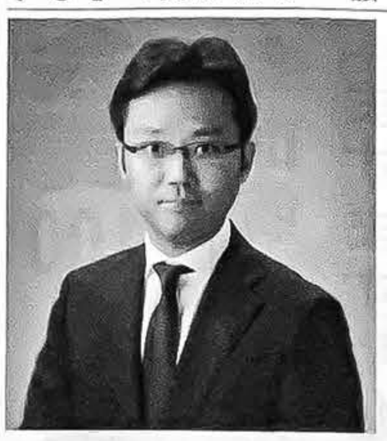
銚子は風光明媚なロケーションを多数有し、食資源も豊富です。これらを目当てに観光客は昨年度、年間250万人を超えました。近年、モノ消費からコト消費へ、団体から個人へ、と観光のあり方が変わってきています。また、リピーターになってもらえるような仕掛けを開発している観光地も増えています。従来型の観光に加えて今後更なる発展を目指すには、インバウンド需要の取り込みやSNSでの積極的な情報発信など、新しい取り組みが不可欠です。

これらの大きな変革期をどのようにして乗り越えていくのかを宿泊施設の皆様とともに考え、新たな視点を見つけられるようにしたいと考えております。

【会員の拡大と成長】

20歳から40歳までの団体という性質上、新会員を絶えず入れ続けることが求められます。これにより組織は新陳代謝が活発となり、新しいリーダーを育成する土台となっています。私も入会して10年が経過しました。これまでに様々な役職、事業を経験することができ、事業を組み立てていくなかで、その事業をなぜ行なうのか、その目的は何か、そしてその効果はどのようなものなのか、を考え抜くことがよりよい事業には必要だと教えていただきました。実行するにはもちろん一人ではできません。周囲の人たちを巻き込んでいく情熱を持ち、やり抜くことで変革を起こせることを体験してきました。青年会議所には「修練・奉仕・友情」の三信条があります。明るい豊かな社会づくり運動に携わっていくなかで多くの人と出会い、意見交換をし、行動を起こしていく。この過程において個人の資質が向上し成長へとつながっていきます。ご興味のある方は一度見学に来てみてください。

今後ともご理解・ご協力よろしくお願い致します。



銚子青年会議所第56代理事長の大木啓嗣さん